

乳幼児の発達保障と幼保問題（その3）

—幼稚園と保育園における保護者と保育者の 子どもの発達の理解の差の分析を中心に—

強 矢 秀 夫（日野市役所）＊ 諏 訪 き ぬ（明星大学）

はじめに

本稿は保護者と保育者が乳幼児の発達をどのように理解し、互いに何を求めているのかを明らかにしようとするものである^{1) 2)}。

1. 研究の目的

まず、幼稚園と保育園別にそこに通園させている保護者と勤務している保育者が乳幼児の発達についてどのような気がかりをもっているのかを手がかりに、発達課題の認識に差異があるかを検討した。また保護者と保育者双方が保育内容について重視する点、保育者が考える家庭教育の課題、保護者の幼・保理解等についても考察することとした。そのことによって幼稚園・保育園が子どもの発達保障について、どのような役割を果たそうとしているか、果たさなければならないかを考察する手がかりを得たいと考える。

2. 研究の方法

1) 調査の内容・調査項目・調査時期及び回収数

上記の項目については、「乳幼児の発達保障と幼保問題」（その2）³⁾に詳述してあるので、割愛する。

3. 研究の結果と分析

1) 乳幼児の発達に関する保護者と保育者の比較

保育者と保護者が子どもの発達に対して、どのような気がかりを持っているのかを「しつけ・生活面」、「性格・情緒面」、「発育・発達面」、「対人面」の4つの視点から比較検討したものが、表1から表4である。この場合の気がかりとは、乳幼児の発達に関して保護者と保育者が何を発達課題として捉えているか、また何を期待しているかの指標と考えることができる。

①しつけ・生活面

まず表1の「しつけ・生活面」の上位項目を見ると、幼稚園と保育園の保育者が「偏食・小食（幼62.9%・保49.8%）、夜更かし（幼48.4%・保64.3%）、あいさつができない（幼43.5%・保37.0%）、だらしな（幼40.3%・保27.2%）」を共通して懸念しているのに

＊ 明星大学非常勤講師

表1 しつけ・生活面の気がかり

最近のお子さんを見て、気がかりな点があればお答えください。しつけや生活習慣の面について（3つまで）	保育者				保護者			
	幼稚園		保育園		幼稚園		保育園	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
1 偏食（好き嫌い）・小食	39	62.9	117	49.8	304	32.4	202	30.6
8 夜更かし	30	48.4	151	64.3	67	7.1	88	13.3
3 あいさつができない	27	43.5	87	37.0	63	6.7	32	4.8
10 特に心配な点はない	1	1.6	7	3.0	332	35.4	259	39.2
2 指しゃぶり・爪かみ	4	6.5	22	9.4	165	17.6	122	18.5
9 だらしがない（片づけができなし）	25	40.3	64	27.2	134	14.3	54	8.2
4 自分で着替えができない（下手）	10	16.1	8	3.4	50	5.3	32	4.8
6 嘘をつく	8	12.9	22	9.4	20	2.1	13	2.0
5 おもらし・夜尿	4	6.5	5	2.1	103	11.0	50	7.6
7 性器いじり	1	1.6	16	6.8	29	3.1	12	1.8

対して、保護者は「偏食・小食（幼32.4%・保30.6%）」は気がかりなものの、「夜更かし・あいさつができない・だらしがない」をあまり気にしている様子はない。特に幼・保の保護者とも「特に心配な点はない（幼35.4%・保39.2%）」が最も高くなっている。

また幼稚園の保育者は「着替えができない（16.1%）」点を気にしているが、保育園の保育者と保護者はあまり重視していない。この他、保護者が気がかりと感じているのに対して保育者があまり注目していないのは「指しゃぶり・爪かみ（幼17.6%・保18.5%）」である。

②性格・情緒面

次に表2の性格・情緒面では、保育者が「わがまま（幼61.3%・保52.8%）、あきっぱい（幼51.6%・保33.6%）、かんしゃくをおこす（幼37.1%・保49.4%）、乱暴（幼22.6%・保43.0%）」といった幼児特有の傾向をあげているのに対して、保護者は「わがまま（幼22.5%・保26.2%）、あきっぱい（幼8.4%・保9.4%）、かんしゃくをおこす（幼17.6%・保20.2%）」と保育者ほど強く気にしている様子はうかがえない。また保護者は「特に心配な点はない（幼34.3%・保38.3%）」が高いのに比して保育者は幼3.2%・保2.1%と低く、保護者が「すぐに泣く（幼16.8%・保17.0%）」ことを懸念しているのに対しても、保育者は幼4.8%・保9.4%と差がみられる。この他、幼稚園の保育者が「緊張しやすい（16.1%）」ことをあげているが、保育園の保育者と保護者はあまり気にしていないようである。

③発育・発達面

表3にみる発育・発達面では、幼・保とも保育者が「体力のなさ（幼61.3%・保51.1%）、歩くのが苦手（幼46.8%・保40.9%）」等の生活経験に基づく発達上の気がかりをあげているのに対して、いずれの項目にも保護者が注目している様子はない（幼3.4%・保2.1%、幼3.4%・保3.0%）。また保育者間で違いのみられた項目としては、幼稚園の保育者の「発語・発音（22.6%）」、保育園の保育者の「肥満（15.7%）」がある。特に幼・保の保護者がともに「特に心配な点はない（幼66.6%・保67.6%）」としていることは、少子化の傾向に

表2 性格・情緒面の気がかり

最近のお子さんを見て、気がかりな点があればお答えください。性格・情緒の面について（3つまで）	保育者				保護者			
	幼稚園		保育園		幼稚園		保育園	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
1 わがまま	38	61.3	124	52.8	211	22.5	173	26.2
7 あきっぱい	32	51.6	79	33.6	79	8.4	62	9.4
4 かんしゃくをおこす	23	37.1	116	49.4	165	17.6	133	20.2
2 乱暴	14	22.6	101	43.0	70	7.5	64	9.7
10 特に心配な点はない	2	3.2	5	2.1	322	34.3	253	38.3
3 緊張しやすい	10	16.1	5	2.1	75	8.0	22	3.3
6 素直でない	6	9.7	25	10.6	37	3.9	17	2.6
9 臆病、気が小さい（不安がる）	6	9.7	12	5.1	98	10.4	72	10.9
5 内気・内弁慶（消極的）	4	6.5	9	3.8	143	15.2	54	8.2
8 すぐに泣く	3	4.8	22	9.4	158	16.8	112	17.0

表3 発育・発達面の気がかり

最近のお子さんを見て、気がかりな点があればお答えください。発育・発達状態の面について（3つまで）	保育者				保護者			
	幼稚園		保育園		幼稚園		保育園	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
8 体力がない（疲れやすい）	38	61.3	120	51.1	32	3.4	14	2.1
9 歩くのが苦手	29	46.8	96	40.9	32	3.4	20	3.0
5 発語・発音が不明瞭	14	22.6	35	14.9	48	5.1	34	5.2
2 肥満	5	8.1	37	15.7	30	3.2	26	3.9
11 特に心配はない	9	14.5	33	14.0	625	66.6	446	67.6
1 身体が小さい	0	0.0	6	2.6	93	9.9	66	10.0
3 やせている	3	4.8	6	2.6	51	5.4	28	4.2
7 病気がち	5	8.1	13	5.5	43	4.6	40	6.1
6 動作が遅い	9	14.5	9	3.8	32	3.4	12	1.8
4 言葉が遅い	2	3.2	21	8.9	45	4.8	32	4.8
10 数が覚えられない・数えられない	0	0.0	0	0.0	9	1.0	12	1.8

よる保護者自身の身体発達面に関する評価基準のなさを懸念する要素として注目する必要がある。保護者たちはわずかに「身体が小さい（幼9.9%・保10.0%）」という外面的な身体発達に着目しているにすぎない。

④対人面

最後に、表4の対人的な気がかりについてみると、幼・保の保育者と保護者とでは傾向が異なっている。保育者は「依存的（幼72.6%・保51.1%）、友達とのけんか（幼24.2%・保29.8%）、おとなしい（幼22.6%・保15.7%）」ことを心配しているが、保護者では「依存的（幼8.6%・保8.0%）、友達とのけんか（幼2.7%・保3.0%）、おとなしい（幼5.4%・保

3.0%)」と低い。保護者の上位3項目では、「特に心配な点はない（幼47.4%・保58.5%）、兄弟げんか（幼18.1%・保11.5%）、人見知り（幼15.0%・保12.0%）」となっている。立場や経験の違いと言えばそれまでだが、対人的な交渉能力の低下を懸念する保育者の気がかりが保護者の認識とずれていることに着目する必要がある。

また、保育者の気がかりでは、幼・保育者の「友達が少ない（25.8%）・親に反抗する（16.1%）」の比率が高いが、保・保育者の場合は「友達が少ない」は14.9%で、幼・保育者より10.9ポイント低く、「親に反抗する」は14.9%で大きな差は見られなかった。

表4 対人面の気がかり

最近のお子さんを見て、気がかりな点があればお答えください。対人関係の面について（3つまで）	保育者				保護者			
	幼稚園		保育園		幼稚園		保育園	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
8 大人に頼りすぎる（依存的）	45	72.6	120	51.1	81	8.6	53	8.0
2 友達が少ない	16	25.8	35	14.9	111	11.8	39	5.9
3 友達とのけんかが多い	15	24.2	70	29.8	25	2.7	20	3.0
9 おとなしい（自己主張が少ない）	14	22.6	37	15.7	51	5.4	20	3.0
10 特に心配な点はない	6	9.7	26	11.1	445	47.4	386	58.5
4 兄弟げんかが多い	0	0.0	2	0.9	170	18.1	76	11.5
7 人見知りする	1	1.6	9	3.8	141	15.0	79	12.0
6 親に反抗する	10	16.1	35	14.9	73	7.8	55	8.3
1 友達がいない	2	3.2	8	3.4	31	3.3	11	1.7
5 いじめられる	1	1.6	15	6.4	9	1.0	4	0.6

全体的な傾向として、幼・保の保育者の気がかりな点は共通している。保育者が乳幼児に対してもつ発達の危機は幼・保といった施設によって違いがあるわけではないことの証左となっていると考えられる。これに対して4つの側面のすべてで幼・保の保護者の最高値は「特に心配な点はない」である。保護者として、我が子の順調な発達を望むことは自然な感情と考えられるが、発達課題に対する保育者との認識のずれが幼・保の保育と家庭教育との不協和を生じさせる可能性を示唆している。

2) 保育内容に関する保育者と保護者のずれ

保育内容で重視したい（してほしい）事項を整理したものが表5である。幼・保の保育者では、「集団生活の規律（幼54.8%・保57.4%）」「同年齢集団の経験（幼54.8%・保31.1%）」「自然とのふれあい（幼48.4%・保25.5%）」「異年齢集団との経験（幼40.3%・保39.1%）」「基本的生活習慣の自立（幼35.5%・保51.5%）」といった幼児教育・保育の根幹的な課題に関する項目が上位を占めている。これに対して保護者も「集団生活の規律（幼55.5%・保47.3%）」「同年齢集団の経験（幼35.2%・保21.5%）」「自然とのふれあい（幼26.2%・保20.2%）」「異年齢集団との経験（幼24.5%・保28.2%）」「基本的生活習慣の自立

(幼17.8%・保30.2%)」と同様の内容を期待していることがわかる。さらに保育園の保育者は「体位向上・健康増進(24.7%)、悩みの相談(19.6%)、地域や社会の知識の習得(17.9%)」に重点を置いている。これに対して幼・保の保護者も「体位向上・健康増進(幼17.5%・保21.5%)」を期待している。またこれ以外に保護者が望むものとしては、幼稚園の「自然を観察する機会の提供(15.1%)」、保育園の「就学前の知的教育(20.6%)」があげられる。保育内容としては、全般的に幼・保の保育者が重視する内容を、保護者も共通して期待している。乳幼児の発達を保障する上で、幼稚園と保育園が近い保育内容をめざし、保護者もそれを望むとすれば、両者の違いを保育内容に求めるのは妥当ではなく、むしろ制度面や保護者の就労といった家庭環境による違いとして解釈すべきであろう。

3) 家庭教育の課題に関する幼・保の保育者間の比較

①家庭教育の課題

幼稚園と保育園の保育者が園児の保護者が行う家庭教育の課題についてどのような認識をもつかをまとめたものが表6である。幼・保の保育者の上位3項目が共通していることが特徴的である。「過保護や過干渉(幼58.1%・保37.4%)、子供の生活体験の不足(幼54.8%・保44.3%)、基本的生活習慣が未確立(幼54.8%・保43.8%)」。以下、幼稚園では「家庭の個人主義化(35.5%)、外部機関への依存(29.0%)、相談相手の不足(22.6%)、愛情の不足(16.1%)」の順であり、保育園では「相談相手の不足(35.3%)、家庭の個人主義化(28.5%)、愛情の不足(28.1%)、外部機関への依存(24.7%)」となっている。多少の順位は異なるが、ほぼ同様の内容を保育者が家庭に求めていることがわかる。しかし、唯一保育園の保育者が「子供への無関心(17.4%)」をあげていることは見逃せない。

②家庭での指導内容

保育者が保護者に家庭でどのような指導を期待しているのかをまとめたものが表7である。幼・保の保育者がともに最も強く望んでいるのは、「基本的生活習慣(幼83.9%・保72.8%)」である。基本的生活習慣は園で重視する保育内容でも上位にあり、保護者もそれを期待しているという結果がでたが、保育者が同様のことを家庭でも求めているということになる。以下、幼稚園では「命の大切さ(41.9%)、生活体験(35.5%)、人とのかかわり(19.4%)」の順であり、これは若干の順位の差はあるが保育園でも同様の結果となっている。「命の大切さ(37.4%)、人とのかかわり(37.4%)、生活体験(26.8%)、健康・安全(16.2%)」であった。

以上から保育者が保護者(家庭)の課題と考え、家庭教育に求めるものが幼・保共通であることがわかった。ここから現在の乳幼児の発達を促す家庭環境と保護者の状況が、幼・保の別を超えて均一化していると考えられる。また乳幼児の発達課題という点から保育者が根源的なものを共通して家庭に求めていると言うことができるだろう。

4) 幼・保の制度理解に関する保護者間比較

①幼・保制度に対する理解

幼・保の保護者の各施設への理解度を比較したのが表8である。幼・保の保護者間での差は見られず、むしろ全体として幼・保制度の違いを認識している保護者が半数程度「幼

表5 保育内容で重視したいこと

保育内容では、特に、どんなことを大切にしたい（ほしい）とお考えですか。 (3つまで)		保育者				保護者			
		幼稚園		保育園		幼稚園		保育園	
		度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
5	集団生活の規則や約束ごと (順序を待つ、物の貸し借り、 あいさつ等)	34	54.8	135	57.4	521	55.5	312	47.3
6	同じ年齢の子供との集団生活や 遊びの経験	34	54.8	73	31.1	330	35.2	142	21.5
10	自然環境との直接のふれあい (野外への遠足や季節ごとの 行事活動等)	30	48.4	60	25.5	246	26.2	133	20.2
7	違う年齢の子供との 集団生活や遊びの経験	25	40.3	92	39.1	230	24.5	186	28.2
4	しつけや基本的生活習慣 (衣服の着脱、トイレの始末、 物の片付け等)	22	35.5	121	51.5	167	17.8	199	30.2
9	自然を観察する機会の提供 (動植物の飼育、栽培等)	9	14.5	27	11.5	142	15.1	92	13.9
1	体位向上・健康増進の活動 (マラソン、体操、日光浴、散歩等)	6	9.7	58	24.7	164	17.5	142	21.5
12	育児や保育に関する悩みの相談	4	6.5	46	19.6	27	2.9	31	4.7
3	地域や社会の知識の習得 (交通のルール、公共機関の 位置や役割等)	3	4.8	42	17.9	135	14.4	84	12.7
13	現状の保育で対応している	3	4.8	4	1.7	77	8.2	60	9.1
11	個別指導のための発達の理解 (発達検査や知能検査の実施等)	1	1.6	4	1.7	12	1.3	5	0.8
2	就学前の知的教育 (文字の読み書き、 数字の読み取り等)	0	0.0	1	0.4	109	11.6	136	20.6
8	特定の技能についての専門的な指導 (水泳、絵画指導、ピアノ等)	0	0.0	1	0.4	24	2.6	20	3.0
14	特にない・わからない	0	0.0	0	0.0	5	0.5	1	0.2

表6 保育者からみた家庭教育の問題点

現在、家庭における教育の問題点にはどのようなものがありますか。 次のうちからあてはまるものを選んでください。(3つまで)		保育者			
		幼稚園		保育園	
		度数	%	度数	%
1	過保護や過干渉	36	58.1	88	37.4
8	子供の生活体験の不足	34	54.8	104	44.3
9	基本的生活習慣（しつけ）が未確立	34	54.8	103	43.8
5	家庭の個人主義化	22	35.5	67	28.5
6	外部の保育・教育機関への依存	18	29.0	58	24.7
7	保育・教育についての相談相手の不足	14	22.6	83	35.3
2	愛情の不足	10	16.1	66	28.1
3	子供への無関心	5	8.1	41	17.4
4	教育への自信のなさ	2	3.2	16	6.8
10	特になし	0	0.0	3	1.3

表7 家庭で指導する内容

家庭で指導する必要があると思うものを選んでください。(2つまで)		保育者			
		幼稚園		保育園	
		度数	%	度数	%
1	基本的な生活習慣を身に付ける	52	83.9	171	72.8
4	命の大切さを教える	26	41.9	88	37.4
7	手伝いなどの生活体験をさせる	22	35.5	63	26.8
6	人とのかかわりを大事にする	12	19.4	88	37.4
5	健康、安全に気をつける	8	12.9	38	16.2
2	自然体験をさせる	5	8.1	21	8.9
3	責任感や根気強さを見につける	2	3.2	16	6.8
8	特になし	0	0.0	0	0.0

(52.6%)、保 (47.9%)」しかないという結果は、保護者にとって我が子が通園する以外の施設についての理解が十分ではない状況にあることがわかる。

②幼・保の保育内容への理解

幼・保の保護者からみた保育内容の理解を比較したのが表9である。この結果も、「幼 (71.2%)、保 (77.4%)」と幼・保の保護者間の差は僅差であり、全体として保護者には幼稚園と保育園が「異なった保育内容」を行う施設として認識されていることがわかる。同様の保育内容を行っていると理解している保護者が「幼 (12.0%)、保 (6.8%)」と、わずかにしかないという事実は、幼稚園・保育園が十分な説明責任を果たす必要があることを示唆している。今後の幼稚園と保育園の将来像を考えるうえでも大きな課題と言えよう。

表8 幼・保制度の理解

幼稚園と保育園の制度について		保護者			
		幼稚園		保育園	
		度数	%	度数	%
1	幼稚園と保育園の制度の違いを知っている	493	52.6	316	47.9
3	なんとなくわかる気がするが、詳しくは知らない	406	43.3	290	43.9
2	幼稚園と保育園の制度の違いは知らない	29	3.1	49	7.4

表8 幼・保制度の理解

幼稚園と保育園の保育内容について		保護者			
		幼稚園		保育園	
		度数	%	度数	%
2	幼稚園と保育園は保育内容が違うと思う	668	71.2	511	77.4
3	保育の内容の違いはわからない	120	12.8	80	12.1
1	幼稚園と保育園では同じような保育をしていると思う	113	12.0	45	6.8
4	特にイメージがわからない	22	2.3	22	3.3

4. 考察

乳幼児の発達保障を保護者と保育者の発達理解や発達支援という視点から捉えた結果、以下のことを確認した。

乳幼児の発達理解に対しては、保護者と保育者間に理解のずれが大きく、特に保護者が課題を過小評価する傾向があった。「しつけ・生活面」、「性格・情緒面」、「発育・発達面」、「対人面」のすべてにおいて、幼稚園や保育園で獲得できるものと家庭で保護者の養育によって獲得するものがあり、それらは乳幼児の発達にとって不可欠かつ相乗効果をもたらすものであるが、保護者の課題意識の甘さは、保育者への過大な期待や要望となる危惧や家庭教育の軽視ともなりかねない問題である。数多くの乳幼児を保育した経験を持つ保育者は、一人ひとりの乳幼児が直面する発達課題に対する懸念を保護者に的確に伝え、育児経験の少ない保護者に対して発達全体に関する啓蒙を図ることから、各園と各家庭が連関関係をもった対応を一層推進する必要があると考えられる。また、保護者も保育者への信頼を深め、家庭という生活の場面で乳幼児が自然に獲得する発達内容を軽視せずに対応することが重要になる。またこのことは、保育者が家庭の課題と認識している内容や家庭教育に求めるものは共通しているという結果にも反映されている。幼稚園と保育園という施設の枠を越えて、保育者が保護者に対して求めるものは、実体のある家庭生活の中で自然に乳幼児が獲得する経験を基礎としたものであり、保育者が現状の個々の家庭教育では乳幼児の発達保障が十分ではないという認識を持っていることを意味している。

一方、保護者が幼稚園や保育園という施設に求めるものは共通性が高いが、実際の幼・保施設への理解は不十分であるという結果であった。幼・保の保護者はそれぞれが異なった保育を行っていると思いながら、保育内容的には同様のものを求めている。このことは、

幼稚園や保育園に対する誤ったイメージを助長し、保護者間の齟齬を生じかねない。小学校という共通の進路を歩む乳幼児に対して、幼・保の共通性を説明し、相互に交流したり、保育の一体化を推進したりすることで、すべての乳幼児に総合的かつ全体的な発達を保障する必要がある。近年とみに推進されつつある幼・保一元化施策が、少子化対策としての効率性の追求や財政的理由に基づくものではなく、「保育の一体化」に向けた取り組みをめざすものでなければ、本来の意味での発達保障とはなりえない。

最後に、これからの幼保問題への取り組みは、保育者が国際的な動向を理解し、「care（保護）」と「education（教育）」を一体とした営みを保育理念の基底に持ち、着実な実践の積み重ねによって、推進されるものであることを付け加えておきたい。

引用文献

- 1) 諏訪きぬ他 「乳幼児の発達保障と幼保問題—狹山市・日野市における「幼・保意識調査」を手がかりに—」 保育学研究第42巻第2号 2004 p.158-167
- 2) 強矢秀夫他「乳幼児の発達保障と幼保問題—子育て支援をめぐる保護者と保育者の意識の「ずれ」を中心に—」 日本保育学会第58回大会研究論文集2005 p.448-449
- 3) 諏訪きぬ他「乳幼児の発達保障と幼保問題（その2）—子育て支援に関する保護者と保育者の意識を中心に—」 明星大学教育学科紀要第21号 2006

参考文献

- 1) 柴崎正行・諏訪きぬ編・著『21世紀へ向けての保育の創造』フレーベル館1999